

## 平成15年度第2回大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会

◆日 時 平成16年2月18日（水）13：30～16：00

◆場 所 春日野荘 飛鳥の間

◆出席者 検討委員／5名中3名出席、横田氏出席  
関係機関／奈良県、三重県、上北山村、三重県獣友会  
環境省／近畿地区自然保護事務所長、他

### ◆議 事

#### (1) 報告事項

- ・個体数調整について
- ・影響軽減対策等について
- ・生息状況モニタリング調査結果について
- ・植生モニタリング調査ワーキンググループ開催について

#### (2) 検討事項

- ・個体数調整について
- ・捕獲方法について
- ・植生モニタリング調査について

### ◆議事概要 （会議は公開で行われた）

○シカによる植生への影響等を検討する必要があることから、横田岳人・龍谷大学講師（大台ヶ原自然再生検討会森林生態系部会検討委員）に植生の専門家として本検討会に参画していただく旨を事務局より説明、了承された。

#### 議事（1）

##### ○委員からの主な指摘

##### （影響軽減対策について）

- ・針葉樹と広葉樹で剥皮による影響が異なるので、樹種ごとに剥皮率の推移、剥皮から枯死に至る年数、枯死した理由についてわかるよう調査すべき。
- ・シカによる植生への影響追跡調査について、今後の影響が懸念される緊急対策地区（A2地区）の地点数を増やすべき。

##### （生息状況モニタリング調査結果について）

- ・妊娠率が75%という結果は他の地域と比較して低い値である。シミュレーションに使用するためには今後もっとサンプル数を増やす必要がある。
- ・生息密度は調査地点数を増やしたこともあり、今年度調査結果だけでは、増加・減少の判断はできない。引き続きモニタリング調査の継続が必要。
- ・昼間のルートセンサス及び定点観察は効率的でないことが確認されたうえ、これからさらに効率が悪くなるであろうから今後実施する必要はない。

## 議事（2）

### ○委員からの主な指摘

#### （個体数調整について）

- ・早い時期に多く捕獲した方が効果的であるので、初年度捕獲できなかつた分を来年度の捕獲個体数に積み増すことについて賛成である。

#### （捕獲方法について）

- ・くくりわなにツキノワグマなど他の動物がかかつた場合は解放するというが、実際、すぐに発見し、怪我なく解放できるのか心配。
- ・計画策定の際、くくりわな使用を懸念する意見があり、それも踏まえてアルパインキャプチャーと麻酔銃による捕獲とした経緯がある。どうしてもくくりわなを使うなら十分な広報が必要。
- ・捕獲数の積み増しへの対応については、アルパインキャプチャーの設置数を増やすなどして、まずは捕獲努力を上げるべきであり、アルパインキャプチャーと麻酔銃による従来の方法での捕獲状況を見た上で、改めて考えることで了承された。

#### （植生モニタリング調査について）

- ・緊急対策地区（A2地区）の植生モニタリング調査地点とあわせて、シカの生息密度調査メッシュを追加すべき。
- ・植生モニタリング調査ワーキンググループで出たその他の提案（トウヒ樹齢、剥皮データ、ササ現存量、ミヤコザサ桿高分布調査）については実施することで了承された。

#### その他

- ・大台ヶ原の自然再生全体の中で、シカの問題を考えていく必要があるので、本検討会を大台ヶ原自然再生検討会の中に位置づける方向で整理する必要がある。  
→自然再生とシカの問題は密接不可分なので、来年度前半を目途に策定予定の大台ヶ原自然再生推進計画に大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画の内容を織り込んでいく。また、計画策定にあわせてその後の体制について一体化する方向で整理したい。

[文責：環境省近畿地区自然保護事務所]